

今年も新米がスタート

～気になる概算金と生育状況は？

台風11号が高知に上陸し四国、中国地方を縦断する前に早々と四国地方の早期米収穫がスタートとなった。日本一早いとされる鹿児島県の種子島コシヒカリの概算金も発表があり、1俵あたり1等で1万2,600円という前年比600円高で設定された。高知の早生品種である南国そだちは台風の影響前に収穫・検査を受けたもので1等品での概算金が9,300円と前年比300円高となった。また、宮崎県産コシヒカリの相対価格は1万5,000円（7月24日までの適用価格 昨年よりも600円高）となった。ただ、鹿児島・宮崎・四国の一部では先の大雨の影響により倒伏・穂擦れが発生しかなりの減収、品質も低下するのではないかとされている。四国・南九州の一部、関東・南東北の極一部の5月連休後のやや遅い移植地域を除いて、全国の田植えのピークであった5月連休前後までに移植されたイネについては全国的に生育の状況は順調のようだ。関東の千葉県・茨城県では早生品種で平年の収穫よりも3～5日は早まるのではないかとの便りが届いており、盆前には収穫が本格化してくるだろう。また、北関東・東北の一部では例年より10日程早いとの話も聞こえてきた。ここに来て例年よりも早いイネの生育に対して生産者の方々も収穫準備作業が間に合わないといった話も出ている。26年産の在庫もあることから米卸では27年度産新米を積極買い入れするといった気運の高まりはまだ見られないようだ。差損を警戒してか青田買いするような動きとはなっておらず前年度産の安い米を抑えに走っているという声もちらほらと耳にする。一方、まだ確定の発表はされていないが生産調整の切り札となっている飼料用米は国や各県の担当官がJA、米集荷業者に対して飼料用米作付の増反を1か月間の申請延期を行い生産者に追加要請を促しており、当初の生産目標数量である60万トンには及ばないものの、40～50万トンの水準に達するとの報道もある。概算金は全国的に前年比500～1,000円高前後でスタートが切られたが、台風や高温障害等自然災害に見舞われない限りは全国の作況指数は100を下回るといったことは起こりにくい雰囲気が強まってきており、今後の価格動向が気になるところだ。



5月7日移植7月27日現在の千葉コシヒカリ例年よりも早い出穂。4月末移植のものでは既に穂が垂れて色づき始める田んぼが見られた。（試験区展示圃より）



博多祇園山笠

7月15日午前4時59分、一番山笠の櫛田入り奉納を皮切りに合計8つの山笠が“櫛田入り”し博多の街へ駆け出すと祭りはクライマックスを迎える。この時、一番山笠のみが櫛田神社の境内で山笠を止め「博多祝い唄」を歌うことが認められている。4時59分となんとも不可思議な時間から始まるのは一番山笠が博多祝い唄を歌う約1分を考慮しているためだ。

博多祇園山笠の起源には諸説あるが櫛田神社の社伝によると、祭神の一つ祇園大神（素盞鳴命）を勧請（かんじょう）したのが天慶4（941）年、すでに都（京都）では現在の祇園祭につながる御霊会

（次ページへ続く）

(前ページより続く)

が行われており勸請間もなく始まったという説と、文献的初見である「九州軍記」に基づいて永享4(1432)年の起源説もあるが、諸説ある中でも仁治2(1241)年、博多で疫病が流行した際に承天寺の開祖、聖一国師が疫病除去のため町民の担いだ施餓鬼棚に乗って祈祷水(甘露水)を撒きながら町を清めてまわったのが始まりという説が有力のようだ。この1241年を起源として福岡市の博多区で毎年7月1日から7月15日にかけて開催され770年以上の伝統を誇るのが博多っ子の祭り博多祇園山笠で、正式には櫛田神社祇園例大祭と言う。国の重要無形民俗文化財にも指定されており、山笠の掛け声「おっしょい」は1996年に日本の音風景100選に選ばれた。

山笠は各地域の山笠運営組織で構成されており「流(ながれ)」と言う。現在は大黒流・恵比須流・土居流・東流・西流・中洲流・千代流の7流と、走る飾り山笠でお馴染みの「上川端通」が追い山ならし(12日午後)と追い山(15日早朝)で櫛田入りをする。櫛田入りをする順番を山番と言い毎年ローテーションするが、上川端通だけは毎年8番目と固定されている。流ができたのは、豊臣秀吉の「太閤町割り」が起源とされていて、秀吉が戦によって焼け野原になった博多の街を復興するにあたり手始めに区画整理として町割りをしたのが始まりで、この一区画が流である。



昇き山



櫛田神社に常設されている飾り山笠。毎年7月1日は装いを新たにす

山笠には「昇き(かき)山」と「飾り山」があり、古くは15メートル前後の飾り山を華美を競いながら時間をかけて町内を練り歩いていたのだが、「櫛田社鑑」によると貞享4(1687)年正月、堅町(恵比須流)に嫁いだ土居町(土居流)の花嫁が、花婿ともども里帰りしたところ、土居町の若者が余興として花婿に桶をかぶせた。これに怒った堅町の若者が押しかけて一触即発の事態となり、その場は何とか収まったものの博多祇園山笠の際に恨みが残っていた恵比須流が昼飯を食べていた土居流を追い越そうと走り出し、土居流も負けじと走り、抜きつ抜かれつのマッチレースを繰り広げたのが町人の評判を呼び「追い山」に発展したという。

他にも沢山の見どころがあるので来年は是非博多へ来んしゃい！(福岡支店)

MAC掲示板～人事異動～

日付	氏名	新	旧
8月1日	高橋 英雄	札幌支店長	東京支店
9月1日	藤田 潤一	東京支店長	札幌支店長
同上	吉野 友隆	営業副本部長 兼) 青果部長	執行役員営業副本部長 兼) 東京支店長 兼) 青果部長

猛暑により、身体に堪える暑さが続いていますね。外での作業をされる方は、熱中症にならない様に無理をせずに十分お気を付け下さい。次号は当紙も夏休みを頂きます。次回は8/26発行予定です。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp